



五輪マラソン金の野口氏に学ぶ

アテネ五輪女子マラソン金メダリストの野口みずきさんが、当時コーチであった岩谷産業陸上競技部の廣瀬永和監督とともに桜丘小学校を訪問。講演で全校生を前に「小さな目標を積み上げ、支えてくれる人を大切にほしい」などと語りました。

講演後は、校内マラソン大会を間近に控えた4～6年生が、野口さんから「あごを引いて腕を真っすぐに振ること」と助言をもらい、グラウンドと一緒に走って汗を流しました。〔11月28日〕



元卓球日本代表監督・西村氏が講演

創立70周年を迎えた市スポーツ協会の記念式典で、本市出身の東京富士大学女子卓球部・西村卓二監督が「スポーツコーチングによる人材育成」と題して講演。アテネ五輪で女子日本代表監督を務めた自身の経験を振り返りながら、「難しいことを分かりやすく選手にアドバイスすることが大事。選手たちに声を掛けて、その気にさせていくように」などと、スポーツの指導者としての心得を説きました。〔12月17日／西脇南中学校〕



子どもたちを社会の主役に—こどもまんなかデー

12月17日に「西脇こどもまんなかデー」と題して複合イベントを開催。妊婦や子育て中の保護者の心身の健康づくりと子育てしやすい社会づくりを目指す「ママもまんなかプロジェクト」の公式YouTube番組の公開収録では、公式アンバサダーの関根勤さん、野々村友紀子さん、小林よしひささん、小児科医の藤田位医師らが子育てについて語り合いました。

また、西脇こども会議では、大阪教育大学の小崎恭弘教授が講師を務め、小学生から高校生までの13人がファシリテーター役の大学生とともに「こどもの笑顔があふれるまち西脇市に向かって、私たちが今できること」について意見交換。地域医療検討会による市民フォーラム、西脇高校生による播州織を使ったワークショップ、子どもの写真展も同時開催されました。〔市民交流施設〕



JR利用促進に向け催し

JR加古川線の利用促進を図ろうと、黒田庄まちづくり協議会が駅舎を活用してイベントを企画。飲食や雑貨などの販売コーナーを設けたほか、電動キックボードの試乗会やハイキングなどを実施しました。〔11月26日／黒田庄駅〕



姉妹都市と交流

市内中学3年生の15人がアメリカ・レントン市の中学2年生とオンラインで交流。学校生活や地域の魅力を英語で紹介しました。中学生による交流は昭和62年に始まり、コロナ禍の中止を挟み4年ぶり。〔12月16日／市役所〕



友好都市と交流授業

西脇小学校が友好都市・北海道富良野市の富良野小学校とオンラインによる交流授業を実施。社会科の授業で都道府県について学ぶ両校の4年生が、学校や地域のことを紹介し合い、絆を深めました。〔12月12日／西脇小学校〕



11年ぶり地元開催の播州織フェア

2025年大阪・関西万博を見据え、11年ぶりに市内での開催となった「播州織フェア」に、西脇市と多可町の18社と2団体がオリジナルの播州織生地約300点を展示。生産現場を巡るバスツアーもあり、東京や京都などから参加したアパレル関係者が3社を訪問し、品質の高さを実感していました。〔11月22～23日／西脇ロイヤルホテル〕



楽しみながら加古川線の未来考える

JR加古川線の利用促進に向け、にぎわいの創出を目指す「heso city club」が始動。「マルトリエ」と名付けた取り組みの第1弾は、楽しみながら加古川線の現状に関心を寄せてもらおうと、マルシェを開いた会場で、来場者が加古川線の課題やまちの未来について意見交換をしました。（24頁に関連記事）。〔12月10日／みらいえ〕